

絵本に見る アートの100年

展示会

一月からニュー・ペインティングまで

100 Years of Modern and Contemporary Art in Picture Books - From Dada to New Painting



- 1.『海と灯台の本』 ウラジーミル・マヤコフスキー 文 ホリス・ボクロフスキー 絵 松谷さやか 訳 新教出版社 2010
- 2.『6つの構成による2つの正方形についてのシュプレマティスムのお話』 エル・リシツキー 絵 Skify 1922
- 3.『アンリくん、パリへ行く』 ソール・バス 絵 レオノール・クライン 文 松浦弥太郎 訳 Pヴァイン・ブックス 2012



International Library of Children's Literature

国立国会図書館 国際子ども図書館

美術における表現は、産業の発展、科学技術の進歩、社会の変化などとともに、様々な展開を見せてきました。その影響は絵本にも見て取ることができます。近年、絵本に対して、その視覚表現性に注目し、美術作品の一つとして探究する動きが活発になってきています。

国立国会図書館国際子ども図書館展示会「絵本に見るアートの100年—ダダからニュー・ペインティングまで」(2019年10月1日～2020年1月19日)では、主に20世紀における革新と創造に焦点を当て、美術の観点から国内外の絵本をご紹介します。絵本の世界における美術表現の広がりをご覧ください。

ダダとシュルレアリスム

ダダは1916年、第一次世界大戦の最中に中立国スイスで始まった芸術運動です。戦争を支えた当時の価値観や芸術のあり方への反抗を掲げ、多くの共感者を得て欧米各国に広がりました。ダダの芸術家たちは、常識にとらわれず、時には物議を醸すような作品を数多く送り出し、以後の芸術に大きな影響を与えとともに、絵本における表現にも新たな地平をもたらしました。

この中で、ドイツを中心に活躍したクルト・シュヴィッターズやハンナ・ヘーヒらは、フォトモンタージュやタイポグラフィなどの技法を大胆に用いて、日常的なイメージを解体し、再構築する作品を数多く制作しました。分野を越え、多岐にわたる彼らの作品の中には、絵本も含まれています。

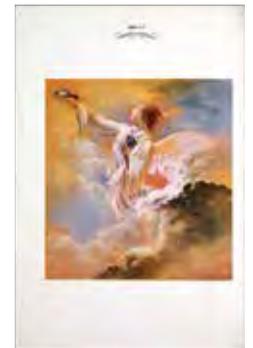
パリでダダの運動に参加したアンドレ・ブルトンらは、1920年代初めにシュルレアリスムを提唱しました。理性や合理性の統制から解放された、夢や狂気、無意識などの世界を通して、人間の本性に迫ろうとしました。そのため、シュルレアリスムでは、偶然性を重視する表現方法が多く用いられました。



『魔法のなべと魔法のたまご』
バルバラ・バルトス＝ヘップナー ぶん
ドゥシャン・カーライ え
とおやまあきこ やく
ほるぶ出版 1990

また、文学と美術との垣根を越えて制作が行われ、文学作品に画家が挿絵を描くことや、画家自身が文章を手がけることもありました。

シュルレアリスムの運動は世界に広がり、時代を越えて影響を与え続けています。ドゥシャン・カーライ、クリス・ヴァン・オールズバーク、建石修志の作品など、現代の絵本の多くにもその影響を見ることができます。



『幸福の王子』
オスカー・ワイルド 原作
建石修志 画
曾野綾子 訳
バジリコ 2006



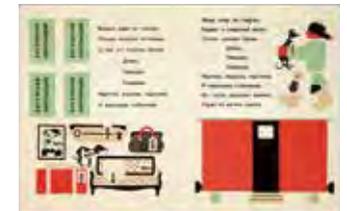
『西風号の遭難』
クリス・ヴァン・オールズバーク 絵と文
村上春樹 訳
河出書房新社 1985

ロシア・アヴァンギャルド

1910年代から1930年代初めにかけてロシア(ソヴィエト)で起こった前衛的な文学・芸術運動をロシア・アヴァンギャルドと呼びます。ロシア革命の混乱時、既存の芸術を破壊し、新たな方向性を模索する中で生まれた運動です。絵本の分野では、ウラジーミル・レーベジェフの作品を筆頭に、鮮やかな色彩と大胆に抽象化した形を用いたアヴァンギャルド絵本の名作が次々と刊行されました。



『Багаж』(荷物)
サムイル・マルシャーク 詩
ウラジーミル・レーベジェフ 絵
鴻野わか菜 訳 淡交社 2004



『Цирк』(サーカス)
サムイル・マルシャーク 詩
ウラジーミル・レーベジェフ 絵
古賀義顕 訳 淡交社 2004

1915年にカジミール・マレーヴィチが提唱したシュプレマティスムは、対象を画面上に再現することを否定し、線や形そのものに価値を見出しました。エル・リシツキーは、シュプレマティスムの考え方を取り入れた絵本を制作しました。1920年代になると、リシツキーやウラジーミル・タトリンらに代表される構成主義が台頭します。日用品や工業製品の実用性が重視され、印刷の分野では読み手に効果的に訴える革新的な紙面デザインが生み出されました。

また、労働者が社会の主役とされたソヴィエトでは、労働や職業紹介についての絵本も数多く誕生しました。直線を効果的に用いた簡潔なデザインで、子どもたちに身近な職業が表されています。



『Pro dva kvadrata : v 6ti postroTkakh : suprematicheskii skaz』
(6つの構成による2つの正方形についてのシュプレマティスムのお話)
El Lisit'skii Skify 1922



『Почта』(郵便)
サムイル・マルシャーク 詩
ミハイル・ツェハノフスキー 絵
鴻野わか菜 訳 淡交社 2004

■ バウハウスとニュー・バウハウス

バウハウスは1919年にドイツで創設された、工芸と芸術の統合を目指した美術工芸学校です。ナチスの台頭によりわずか14年間で閉校しますが、その理念を受け継いで、ニュー・バウハウスがアメリカに設立されました。

美術、工芸、建築などの垣根を越えて総合性を追求したバウハウスの思想は、今日の美術、デザイン、そして絵本にも大きな影響を与えています。



『ゆかいなかえる』
ジュリエット・ケベシュ 文・絵
いしいもこ 訳 福音館書店 1964

■ グラフィック・デザインの可能性

美術の展開と歩調を合わせたデザイン界の革新は、絵本における視覚表現にも影響を及ぼしました。子どもの本をデザインするという考え方が1940年頃に登場し、1950年頃からはグラフィック・デザイナーたちが絵本制作にたずさわるようになります。視覚芸術の新しい考え方が絵本の世界に持ちこまれ、視覚的な表現でストーリー展開を図る試みが広がりました。グラフィック・デザイナーたちによる絵本には、読み手の想像力を引き出す仕掛けが多用されています。

■ チェコ・アヴァンギャルド

1918年にチェコスロヴァキア共和国が誕生すると、シュルレアリスムなどのヨーロッパ各地の新しい芸術運動が流入します。カレル・タイゲらにより1920年に結成された芸術家集団「デヴィエトシル」のメンバーを始めとするチェコの芸術家たちは、それらの運動に影響を受け、芸術を高尚なものとする伝統的な価値観を否定し、日常生活に美的・詩的なものを取りこむことを目指しました。こうした動きは、チェコの絵本に鮮やかな色彩とシンプルな形態をもたらしました。



『こいぬとこねこはゆかいななま』
なまよしのふたりがどんなおもしろいことをしたか
ヨセフ・チャベック ぶん・え
いぬいとみこ、井出弘子 やく
童心社 1968



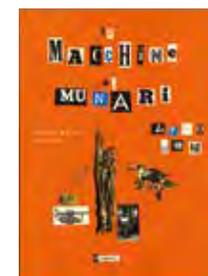
『ダーシェンカ: あるいは子犬の生活』
カレル・チャベック 文・絵・写真
カレル・タイゲ 装丁
保川亜矢子 訳
メディアファクトリー (KADOKAWA) 1998



『あおくんときいろちゃん』
レオ・レオーニ 作 藤田圭雄 訳
至光社 1981



『アンリくん、パリへ行く』
ソール・バス 絵
レオノール・クライン 文
松浦弥太郎 訳
Pヴァイン・ブックス 2012



『ムナーリの機械』
ブルーノ・ムナーリ 著
中山エツコ 訳
河出書房新社 2009

日本のモダニズム



扉絵「人造人間」【身体と食物】
正木不如丘 著 恩地孝四郎 絵
アルス 1927

日本でも、大正期に入ると前衛芸術の運動が起こります。1914(大正3)年、抽象絵画の創始者とされるワシリー・カンディンスキーらの作品による木版画展が日本で開催され、恩地孝四郎などの若い版画家たちに影響を与えました。恩地はその後、創作版画を中心に抽象表現を追求し続けました。同時に、絵本の挿絵や装丁も手がけ、数多くの傑作を生み出しました。

第一次世界大戦後には、ヨーロッパに留学する芸術家が増え、ヨーロッパの芸術運動が一挙に日本に伝わりました。1922年にベルリンに留学した村山知義も、留学先でダダやロシアの構成主義などに触れ、刺激を受けます。村山は帰国後、柳瀬正夢(別名・夏川八郎)らと新興芸術グループ「MAVO」を結成し、日本の前衛美術を先導しました。

1923年に発生した関東大震災以降、復興の過程で都市の近代化が進み、美術の近代化も加速していきました。



「あひるさんのおたんじょう日」『あひるさんとにわとりさん』
村山篤子作 村山知義 絵
ニューフレンド 1948



「米」
鈴木文助 編 夏川八郎 画
東京社 1937

第二次世界大戦後の美術の展開

第二次世界大戦が始まると、多くの芸術家がヨーロッパからアメリカへと亡命しました。芸術の中心がパリからニューヨークへと移り、美術における表現は多様化していきます。高級な文化とみなされてきた芸術は、急速に大衆文化との融合が進み、身近な存在となっていきました。

今日では、現代美術作家など、多方面の芸術家が絵本の分野に参入し、絵本における美術表現の可能性はますます広がっています。



『もこもこもこ』

もとながさだまさ あざ ちゅうしやう
元永定正による鮮やかな抽象画と、「しーん」、「もこ」、「によき」といった擬音語が調和したユーモアあふれる絵本です。

「もこもこもこ」
たにかわしゆんたろう さく
もとながさだまさ え
文研出版 1995

『ホシコ：星をもつ馬』

一人の少年と美しい馬が戦争に翻弄されていきます。悲痛な物語の印象を、線と色彩を自在に用いて独自の抽象表現を追求する早川重章の静かでありながら力強い絵が深めています。



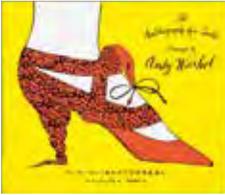
「ホシコ：星をもつ馬」
加藤多一文 早川重章 絵 童心社 2006



『あのこ』

戦時中の疎開地を舞台に、馬と話せる少女を描いた絵本です。宇野亞喜良の幻想的な絵によって物語の不思議な世界観が強調されています。

「あのこ」
今江祥智文 宇野亞喜良 絵
BL 出版 2015



『アンディ・ウォーホルのヘビのおはなし』

はな かつやく
華やかな世界を夢見るヘビがお金持ちや有名人を相手に活躍
し、名声を手に入れます。20世紀を代表するポップ・アーティスト、
アンディ・ウォーホルによる作品です。

『アンディ・ウォーホルのヘビのおはなし』
アンディ・ウォーホル 著 野中邦子 訳 河出書房新社 2017

『ジャリおじさん』

鼻の頭にひげが生えているジャリおじさんの物語です。国内外で活躍
する現代美術作家のおおたけしんろう おおたけしんろう えとぶん ふく音館書店 1994
が手がけた絵本です。

『ジャリおじさん』
おおたけしんろう えとぶん 福音館書店 1994



『ぼぼーべ ぼびぱっぷ』

ちゅうしやう ちゅうこく たき
抽象画や彫刻など、多岐にわたって活動する造形作家、おがざきけん おがざきけん おとづま 岡崎乾
二郎がダイナミックな筆致で描いた躍動感みなぎる絵に、だくおん だくおん
音と文字がとけこんだ絵本です。

『ぼぼーべ ぼびぱっぷ』
おがざきけんじろう 絵 谷川俊太郎 文 クレヨンハウス 2004

『ともだちがほしかったこいぬ』

大きすぎて誰にも気づかれない こどく こどく
孤独な子犬と少女の出会い
が描かれています。目つきがするどい女の子のイラストで
有名なアーティスト、ならよしとも ならよしとも
奈良美智による一冊です。

『ともだちがほしかったこいぬ』
ならよしとも えとぶん マガジンハウス 1999



発行 国立国会図書館 2019年10月1日発行
編集 国立国会図書館国際子ども図書館
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49
TEL 03-3827-2053 (代表)
URL <https://www.kodomo.go.jp/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

リサイクル適性 
この印刷物は、印刷用の紙を
リサイクルできます。